

昨年(2022年)起こった世界の異常気象

地球環境に学ぶサークル 小田原 一博

気象庁は2023年夏(6~8月)の全国平均気温が1898年の統計開始以来最高だったと発表。毎日、猛暑や超大型台風ニュースを目にするため、異常気象が日常のように錯覚し始めています。異常気象は大きな自然災害を頻発し、食糧や水不足、ひいては貧困や紛争の基となります。異常気象原因の温室効果ガスを一刻も早く大幅削減し、自然エネへ転換など緊急的な対策が不可欠です。昨年(2022年)の異常気象を国際環境NGOグリーンピース・ジャパンが纏めたものをご紹介します。

1. 2022年に起こった世界の異常気象

(1) 2月:日本、各地で記録的大雪
2021年末から2022年2月に、北日本や日本海側で記録的大雪。岐阜関ヶ原の積雪は観測史上1位を更新。除雪作業中の死亡事故など相次いだ。

(2) 3月:北インド、熱波
3月中旬から熱波。5月中旬は50度近い気温、インド全体の平均気温は1901年の統計開始以来3月として最高。2022年のインドの平均降雨量は3番目に少なく、熱波警報を発信。

(3) 4月:南アフリカ、土砂崩れと洪水
60年ぶりの豪雨で洪水や土砂崩れで街が破壊。何百人が命を落とし無数の家が破壊された。

(4) 5月:ブラジル、大洪水と地滑りによる被害
豪雨、洪水、地滑りにより、ブラジル北東部で106人死亡。避難指示や非常事態を宣言。

(5) 6月:日本、147年ぶりの猛暑
2022年の夏は連日猛暑。東京は6月25日から9日連続で35度超の猛暑日で観測史上最長。

(6) 7月:豪州、洪水で5万人避難
シドニーで4日間に800mmの雨、今年3度目の洪水発生。食料生産地が浸水、野菜や果物も被害。

(7) 8月:米国加州で1200年ぶりの干ばつ
58郡で干ばつ緊急事態宣言、節水呼びかけ。北海道14個分以上の面積の作物に被害。

(8) 8月:フィリピン、台風16号で被害多数
ルソン島中部を襲い被害発生、8万人が一時避難。多額の農業被害。台風が超大型化している。

(9) 9月:パキスタン、国土の1/3が水没洪水
食料や医薬品不足が続き、感染症まん延のリスク。

(10) 12月:米国、24時間降雪量の観測記録更新
ニューヨーク州では、数日間で180cm以上の積雪。24時間の降雪量の観測記録を更新。

※参照:国際環境NGOグリーンピース・ジャパン
<https://www.greenpeace.org/japan/campaigns/story/2022/12/27/60832/>



気候変動で海水の縮小がホッキョクグマの減少を招き、2100年までに絶滅の恐れ

参照:BBCニュース

ヘレン・ブリッグス、ヴィクトリア・ギル、科学担当編集委員

2. 温暖化抑制で気候危機を食い止めよう

1. 5°C温暖化も達成厳しい状況で、2.7°C温暖化に突入しようとしている。2030年までに温室効果ガスを半減できれば、気候悪化を食い止められるかもしれない。省エネを進め、再エネにシフトし、温室効果ガスの多い食物消費システムも見直そう。他人事ではなく、危機が自分にも迫っていることを認識し今日からあなたも行動を変革しよう。